

**アジア最大! プロジェクションマッピングの国際コンペが新潟市で開催!**  
**5年目を迎える国際大会が今年の募集を開始! グランプリ賞金は100万円!**



2012年に神奈川県で始まったこのプロジェクションマッピング国際コンペティションは、昨年より新潟市に場所を移し、5日間で約**47,000人**の観客を集める大きな盛り上がりを見せました。昨年度は**世界15の国と地域**から**42**のエントリーが寄せられ、その中から最終選考に選ばれた**16**のファイナリスト作品を上映。世界レベルのプロジェクションマッピングが多くの人々を魅了しました。昨年度受賞作品はグランプリが**マカオ**、準グランプリが**メキシコ**、3位は**ブラジル**という結果となり、今年度は日本人のグランプリ、そして上位入賞があるのかにも注目が集まります!



## 会場は建築が美しい「みなとぴあ」

新潟市歴史博物館「みなとぴあ」は西洋デザインの外観をもった美しい建築で、幅64m、高さ20mです。プロジェクションマッピングの対象としてもとても適しております。また信濃川沿いの臨港エリアにあり、開放的な空間では様々な出店も並び、ゆっくり楽しむことができます。

## グランプリ賞金は100万円!!

本年度は「DOOR」というテーマを用いて、世界中のクリエイターが1分～1分59秒以内の作品を制作し応募します。用意された映像制作用のフォーマットを用いて、世界共通条件で制作し、実際のプロジェクションマッピング上映をして公開審査、グランプリ～3位、その他の賞を決定します。本年度のグランプリには、**100万円**の賞金がPMAJやスポンサー企業から送られるほか、翌年度のゲスト作家として次回開催地への招待と、作品制作がオファーされます。

## 国際コンペの実施概要

企画名: 1 minute projection mapping 2016  
in にいがた☆MINATOPIKA

開催日: 2016年9月16日(金)～19日(月・祝)の4日間  
 プレス、関係者向け試写会: 9/15(木)  
 公開審査会、表彰式: 9/19(月・祝)

開催時間: 18時30分～21時

会場: 新潟市歴史博物館/みなとぴあ(新潟市中央区柳島町2-10)

主催: にいがた☆MINATOPIKA 2016 開催実行委員会

企画: (一財) プロジェクションマッピング協会

応募作品のテーマ: DOOR

募集映像の長さ: 1分～1分59秒

応募期間: エントリー: 7月末日、ファイナリスト発表: 8月末

上映作品数: コンペ作品10～16、ゲスト作品2～3

1回の全体上映時間: 約40～45分程度

ゲスト作家①: Neba Studio(マカオ昨年度グランプリ)

ゲスト作家②: Bodos ArtWorks(ハンガリー)

来場者予定: 50,000～70,000人(1日2-3回×4日)

## 取材のお申し込み、お問い合わせ

(一財) プロジェクションマッピング協会 事務局(藤井)

TEL: 03-6416-9496

FAX: 03-6701-2900

E-mail: info@projection-mapping.jp

※お名前、所属、媒体名などを添えてご連絡ください。



世界のトップクリエイターや業界の有識者による公開審査を実施(9/19)

ハンガリーのBordos ArtWorks氏をゲスト作家、審査員として招聘!



**Bordos ArtWorks(ハンガリー)**

ハンガリーのブタペストを拠点に活動するCGクリエイター、VJ、アートディレクター。プロジェクションマッピング表現に早期から取り組み、エッフェル塔やドバイの巨大なホテル、Mapping Festivalでの作品など、世界にインパクトを与え続けている。世界のプロジェクションマッピング業界を牽引してきた一人で、様々なプロジェクションマッピングの国際コンペで審査員も務めている。今回は初来日となり、審査員その他、Bordos氏のプロジェクションマッピング作品も上映予定。



**杉山 知之**

87年よりMITメディア・ラボ客員研究員として3年間活動。94年、専門スクール・デジタルハリウッドを設立。2004年日本初の株式会社「デジタルハリウッド大学院大学」を開学。翌年「デジタルハリウッド大学」を開学し、現在、学長を務めている。マルチメディア放送ビジネスフォーラム代表、コンテンツ学会副会長、福岡コンテンツ産業拠点推進会議会長、メタバース協会理事長を務め、また「新日本様式」協議会や、CG-ARTS協会など多くの委員を歴任。

審査のポイントは「独創性」「映像クオリティ」「演出構成」「PM表現技術」「テーマ性」



100万円の賞金がかかった公開審査  
審査員の目に止まるのはどの作品か!?

その他の審査としては、昨年度グランプリに輝いたマカオのNeba Studioも来日し、ゲストクリエイターとして再び新作を発表予定です。そして日本のプロジェクションマッピングのシーンを築いてきたひとり、PMAJ代表の石多も審査員を務めます。



昨年度のハイライト映像→【<https://youtu.be/eBcC0sw4itg>】

総合演出、企画・プロデュース



**石多 未知行(総合演出、プロデュース)**

プロジェクションマッピング協会 代表  
クリエイティブディレクター、空間演出家、東京芸術大学非常勤講師  
映像を使った空間演出を多数手がけ、プロジェクションマッピング協会を立ち上げるなど、日本のプロジェクションマッピング業界を牽引してきた一人。イギリスを拠点にヨーロッパで活躍していた時期もあり、世界のフェスティバルや国内外のトップクリエイターとの交流も多く、世界を知るクリエイター、ディレクター、そしてプロデューサーとして、世界レベルのクリエイションを日本で育む活動も展開している。

一般財団法人 プロジェクションマッピング協会(PMAJ)

2010年に神奈川県の変子市でプロジェクションマッピングを実施し、そのプロジェクトのクリエイターメンバーを中心に立ち上げ。2012年に一般財団法人化し、国内外の様々なクリエイターや技術者とネットワークしながら大小様々なプロジェクトを多数手がけてきている。プロジェクションマッピング技術の普及啓発、人材育成など、業界の広がりを作ってきている。



PROJECTION MAPPING  
ASSOCIATION OF JAPAN